

新しい礎石は100×80cmの巨大な河原石を使用しています。その80cm下には古い礎石が発見され、建て直す際に大規模な盛土を行なっていることがわかりました。この盛土からは沼田城の古い段階の瓦が出土しているため、古い礎石が真田信之による天守、新しい礎石が真田信直による天守と推定できます。



古い礎石は小さな石（根固め石）を敷き詰めた上に巨大な河原石を据える構造をしていたようです。建て直しの際に巨大な石は撤去されて、根固め石だけが残されていました。



古い礎石の根固め石

旧天守より更に古い地面で鍛冶炉の跡が発見され、炉の周囲で鉄製品を加工した痕跡が見つかりました。沼田城整備の土木工事で使う道具を手入れたのかもかもしれません。



鍛冶炉跡

天守には金箔瓦

正保城絵図には、夫・信之が整備した沼田城が描かれておるぞ。



1層目は塀の陰になってみえていません

しょうほうしるえず
正保城絵図 上野国沼田城絵図
国立公文書館蔵（天守部分のアップ）



ついに天守に関わる発見があった！
しかし本当に五層の天守に迫るには
まだまだ調査と研究が必要じゃ！

小松姫 ©信之・小松姫プロジェクト

発行 令和5年4月1日
沼田市教育委員会文化財保護課
沼田市下之町888 TEL0278-23-2111



天守の柱を支えた礎石を発見！

沼田市教育委員会では、沼田城跡の調査・保存整備事業を行っています。『沼田城かわら版 第1号』（2022年2月号）では、平成30年度から令和2年度までの調査成果についてお知らせしました。第2号では、令和3・4年度の調査成果についてご紹介します。

古文書からわかる沼田城の歴史

沼田公園の場所に最初に城を築いたのは沼田氏で、倉内城と呼ばれていました。これを武田氏が奪って真田氏に整備を命じ、沼田城と呼ばれるようになりました。

沼田城は3回大きな整備が行われ、2回目と3回目には天守が建てられたと考えられます。その後、真田氏が改易（所領取上げ）されたため、沼田城の主要施設は破城（破壊）されました。

沼田城歴史年表

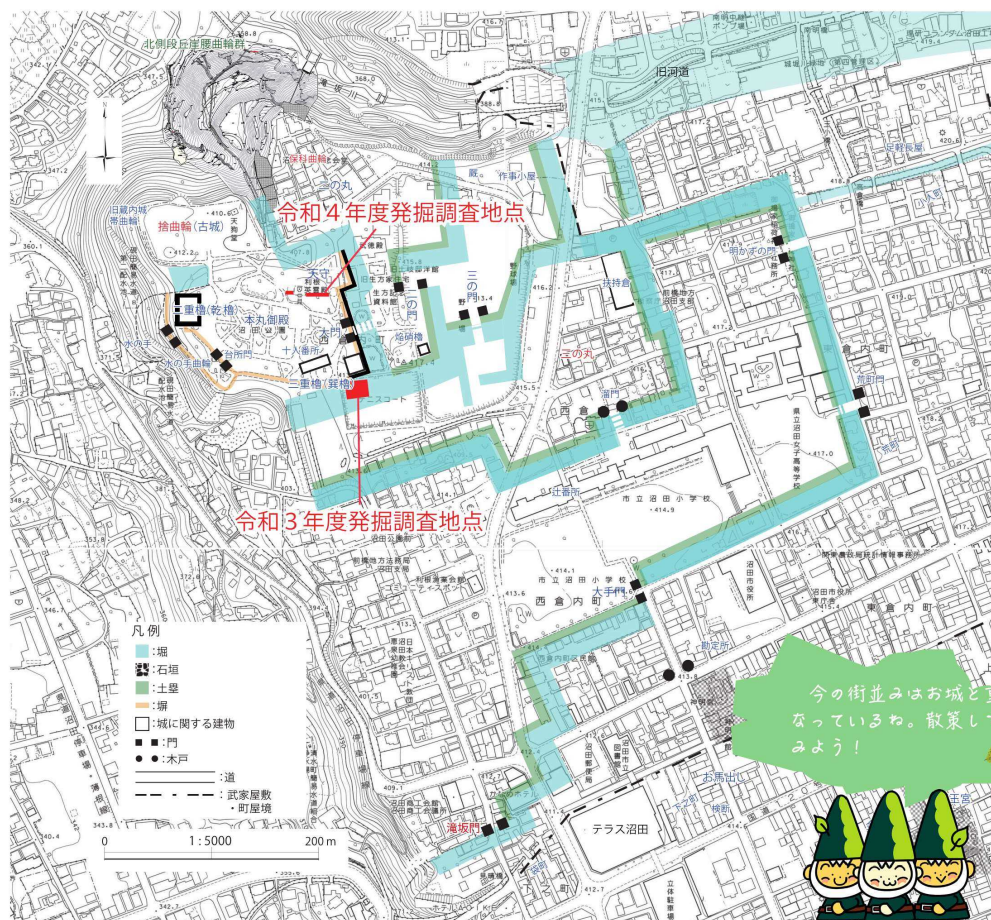
1532年頃	沼田氏による倉内城築城
1583～ 1588年頃	真田氏による1回目の沼田城整備
1596～ 1612年頃	真田氏による2回目の沼田城整備 真田信之による天守整備
1658～ 1661年頃	真田氏による3回目の沼田城整備 真田信直（信利）による天守整備
1681年	真田氏改易
1682年	沼田城破城

調査成果の概要

沼田城跡の調査は、沼田公園長期整備構想に伴い、平成5年から3期に渡って実施してきました。現在の調査・保存整備事業では、真田氏が治めていた江戸時代初め頃（17世紀初頭）の沼田城の構造や歴史を明らかにすることで史跡の上位指定を目指しています。発掘調査、測量調査、地中レーダー探査などの調査を通じて分かったことは大きく分けると次の2点があります。

- 1 現在の公園の地下には沼田城の遺構が思いのほかよい状態で残っていること
- 2 天和2（1682）年正月の破城の状況がよく保存されていること

これに加えて、令和4年度の調査では、天守の柱を支えていたと考えられる礎石を発見しました。沼田城の最大の謎である五層の天守に迫る大きな発見です。



現在の市街地と沼田城跡



今期事業の調査内容

令和3・4年度

令和3年度

- 調査したこと
 - ①旧テニスコート内の発掘調査
 - ②北側段丘崖の土輪群を測量
- 発掘調査でわかったこと
 - 城を壊す過程がわかりました。
- 測量調査でわかったこと
 - 北側段丘崖に腰曲輪群が分布していることを確認しました。

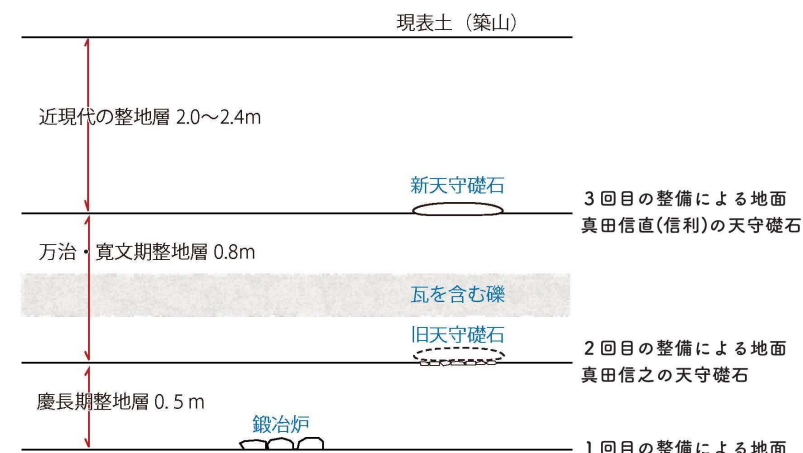
令和4年度

- 調査したこと
 - ①天守推定地の発掘調査（利根英霊殿の東西）
 - ②地中レーダー探査（利根英霊殿周辺）
- 発掘調査で分かったこと
 - ①天守の柱を支えていたと考えられる礎石を発見しました。
 - ②礎石は新しものと古いものがあり、改修された可能性がある。
 - ③古文書の記録から古い礎石が真田信之、新しい礎石が真田信直の整備した天守のものと推定できる。
 - ④天守より古い地面と鍛冶炉を発見しました。
- 地中レーダー探査で分かったこと
 - ①古い礎石の上の盛土が広範囲に分布する。
 - ②本丸は古城地区より高く盛土されている。

堀の中に土止めによって石敷きの道を確保してから城を破壊し、廃材を投げ捨てていました。



令和3年度の発掘調査を行った堀の内部の様子



令和4年度の発掘調査で見つかった礎石と真田氏が整備した各地面の関係